

2005 02 18

相模湾の地震観測システム 観測装置3種類を接続

海洋機構が運用開始

海洋研究開発機構は17日、相模湾初島沖の水深約1200メートルの海底に設

置して地震などのリアルタイム観測を行っている「海底地震総合観測システム」に、新たに京都大学などと共同開発した海底微圧計など3種類の観測装置を接続、2月から運用を始めたと発表した。複数の測定機器を海底ケーブルに設置し、リアルタイム観測の能力を大幅に拡充する技術は世界的にも例がない。

1月9日から14日にかけて海洋調査船「なつしま」と無人探査機「ハイパードルフィン」を用いて、深海底総合観測ステーションに海底微圧計と海底重力計、海底電位差磁力計を海底で接続。観測機器の調整を行った結果、良質なデータが得られ、10日から長期連続観測を始めた。海底観測所の構築で培われた海洋技術や海底観測データを今後、リアルタイム防災システムの構築などに役立てていく。

2005 02 18

リアルタイムで 地震や津波観測

海洋機構、相模湾で

海洋研究開発機構は十七日、相模湾初島沖の海底ケーブルに観測機器を設置し、地震や津波をリアルタイムでとらえる実験を始めたと発表した。海底ケーブルでのリアルタイムの観測は北海道釧路・十勝沖や高知県室戸岬沖などでも実施している。

静岡県初島から東南方向に約十キロ伸びる海底ケーブルに、海洋機構や京都大学、東海大学が開発した圧力計や磁力計などの観測機器十三台をつなぎ、インターネットを使ってデータをリアルタイムで集める。異常を感じた際に、遠隔地に情報を送り被害を低減する防災システムの構築に役立てる。